

第 18 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 27 年 2 月 20 日(木)
午後 1 時 25 分～午後 2 時 56 分

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員（敬称略）：住田篤美・野田親弘・藤江敏子・和田季子・中嶋紀恵・櫻田恭一・田中俊行・祝部大輔・吉居努

欠席者：大西喜久子・小林幸子・小椋あけみ・松田葉子

米子市水道局：中原水道事業管理者・八幡次長兼計画課長・小野川次長兼営業課長・松田次長兼給水維持課長・金田総務課長・星野浄水課長・森井水質管理課長・松前施設課長・安村境港営業所長・高林主査兼浄水課戸上配水係長・仲田主査兼給水維持課給水係長・本池主査兼浄水課水源管理係長・湯崎総務課会計係長・山内総務課主任・事務局

○日程

1 議題

(1) 平成 27 年度の当初予算（案）について

2 その他

(1) 配水池設置事業の進捗状況について

(2) 新規水源開発について

3 事務連絡

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係者を除く）
3名

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先
米子市水道局計画課企画調査係（TEL.0859-32-6112）

1 議題（議題の概要及び質疑）

（1）平成27年度の当初予算（案）について

＜案件説明：湯崎総務課会計係長＞

編成方針について

平成19年度の策定した米子市水道ビジョンに、厚生労働省が推奨するアセットマネジメントの手法を取り入れ検証を加えながら、平成27年度予算を編成しました。

災害対策などの事業に重点を置きながら、配水池設置事業や西尾原水源の更新事業、庁舎の建設などを盛り込んでおります。

平成27年度事業計画について

資料「平成27年度の当初予算（案）について」

P2、平成27年度の7事業計画を説明。

減価償却と企業会計制度改正について

資料「減価償却とは…」

P1、資本的収支及び収益的収支を説明。

P2、企業会計制度の改正前後を比較して説明。

平成27年度の予算について

資料「平成27年度の当初予算（案）について」

P3、収益的収支と資本的収支を説明。

P4～5、平成27年度当初予算を平成25年度決算及び平成26年度決算見込みと比較して説明。

質疑応答

【住田委員】ご説明いただきました。ご質問、お分かりになりにくいところがございましたら、ご遠慮なく。

【野田委員】企業債というのは、事業をする時に発生させる訳ですが、少なくとも、少なくすれば利息も減ってくると思うのですが、なるべく抑えるという方法で事業を進めるということはできないものでしょうか。

それともう一点、局庁舎ですが 28 年度着工で、現在設計段階とのことですが、建設のための積立金はどれくらいある訳ですか。

【金田課長】おっしゃられましたとおり、借金なしに事業を運営できれば一番いいですが、我々申し訳ないですが、潤沢に資金を持っている企業ではございません。ただし無闇に企業債でやって行くことは避けようと、そのために平成 19 年に作りました基本計画の中で、やるべき事業と将来を予測した財政計画をリンクさせ、なるべく支出を抑えながら必要な事業は進めて行こうというスタンスです。

それから庁舎ですけれども、そのための資金を積立しているということではございません。

【野田委員】はい、ありがとうございます。

【櫻田委員】27 年度事業計画の中で、2 番目の老朽管更新事業は 1 億 800 万円と前年並みという予算組をしておられますが、この数字は妥当だと思われませんか。というのは去年の 10 月にテレビで「押し寄せる老朽化 水道クライシス」という番組をやりました。漏水もあるし老朽化に備えるという内容で、老朽化したものを更新するスピードがおっつかないという事例をやっておりました。今資料を見ますと 2,580m ですが、年々老朽化率がどのくらいあって、それをどういう格好で手当てしていくか、その辺りが分かれば教えていただけますでしょうか。

【松田課長】給水維持課という所管のポジションで漏水調査を年次的に計画して行っております。1,300km 程あります配水管路の延長の中で大体 150km から 200km を目標に調査をしております。25 年度には本管部分の漏水を 21 件発見しております。これに伴って約 50,000 m³の漏水を防止したという実績を持っております。年間の布設替の延長とその予算については、収支のバランスということもあり、優先順位を決めております。今私共が優先的に更新を進めております路線は、昭和 30 年代の石綿管という管ですが、ほぼなくなって実質 200m 程になってまいりました。しかし道路との兼ね合いで道路工事待ちのため、残さざるを得ない場所もあります。それから大正

15年の創設当時のいわゆる「ねずみ鋳鉄」、これも鋳鉄管でありながら脆い管種でありますので更新を取り急ぎます。それから塩ビ管も取り組んでいます。主に災害時の避難所に指定されている場所や医療関係の所をメインに捉えながら布設替を行っております。先程も言いましたが、収支のバランスを見ながらこの程度の更新距離と工事費が妥当ではないかなと考えています。

先程会計の方から、アセットマネジメントという言葉ができましたけれども、1,300kmの配水管路網全てが耐震化される目標としては、ざっくりですが西暦2100年を見えています。それ位長いスパンで替えていかないと、配水管網全てが耐震化できないという感覚でおります。

【八幡次長】先程の櫻田委員のご指摘のとおり、老朽管更新については予算を当てなければ事業が回らないため、どこの事業体も同様の問題点を持っております。米子市水道局では今布設する管については全て耐震管でございますので、老朽管更新事業以外にも改良費で出ております配水管は耐震管に替えて行きます。予算の費目の付け方で分かれていますけれども、老朽管、耐震管も含めて事業を促進しなさいという一方で、費用の手当てが全くないものですから水道局独自で考えなければなりません。そうすると健全経営の方針では身の丈に合った布設延長になってしまいます。法定耐用年数についてですが、法定耐用年数が切れた途端に管が破損する訳ではございませんから、優先順位を付けながら適宜更新して行きます。これも財源が伴いますので、それに見合った分だけという方針で考えております。以上でございます。

【住田委員】法定耐用年数はいくらでしたかいな。

【八幡次長】法定耐用年数が鋳鉄管で40年となっておりますが、法定耐用年数以上に持ちますし、それから新しい耐震管は100年持つとメーカーサイドは言っております。ただそれを全て100年にするのは考えにくい事があります。アセットマネジメントを含めて、それぞれの管種は独自の耐用年数を設けて計画をしております。

【住田委員】50年を経過した管の事故が、各自治体でも圧倒的に多いと聞きました。

【櫻田委員】土質の問題などもあって40年という耐用年数はあるけれども、長持ちする場合もあるし、それより早く壊れる場合もある

るという事例を見ましたので心配しました。

【八幡次長】報道されている様に極端な例もありますし、先程申し上げましたとおり創設当時の管も実際には使っておりますので、場所により一様に耐用年数だけという訳ではございません。その状況を見ながらという格好にさせていただいております。

【住田委員】26年度で水道管が破裂したとか、そういった事故というのは何件かあったですか。

【松田課長】極めて緊急事態だという様な事はありませんでしたが、地上路面に染み出て来る様な公道での漏水は20件位ありました。一時市内でも道路を壊すような爆発的な管破損がありました。そういった所は優先的に布設替をさせていただきました。先程申しました管種によって危険をはらんだパイプはまだあるんですけれども、調査の頻度を上げながら危険を早めに察知して更新させてもらっております。

【住田委員】その他にご質問等はございませんか。

【藤江委員】質問ではありませんけど、制度改正があつて会計の見方が変わってくる様に思うんですけれども、会計の情報を見て、専門的な言葉だとか何となく分かりにくい所が今までの会計でもありましたけれど、少しずつ説明を受けたり、この様に資料で可視化してもらつて、委員としても分かり易くなつて来ています。これからも制度が変わつて色々な会計のあり方が出てくると思いますが、私達は主婦の者もおりますので分かり易く説明をしていただいで、私達個々が市民に聞かれた時に、水道局としてこういう事でこうされていると言える様にしたいと思つたので、続けて宜しくお願いします。

【住田委員】その関連でね、新制度の一番の目玉が長期前受金だと思いますが、簡単に説明してもらえますか。

【湯崎係長】非常に大きな資産を取得した時に、それをその年の費用とするのに年割りで費用に算入していくのが減価償却と言う事になります。その部分が水道料金をいくらにするか決定する要因になってきますが、資産を取得する時には企業債を充てる事が主ですが、それは自分の所でするお金です。資産を作る中で、例えば工事負担金ですとか外から貰えるお金ですね、他の事業体さんで補助を沢山貰つたりして資産を増やして行く場合がございます。これも減価償却費というものが発生します。すると自前と外からと両方が費用として算入される事になります。外からのお金が沢山の所は、水道料金がどーん

と上がる様な形になります。外から入ってくる工事負担金や補助金で出ている減価償却費は、一方で長期前受金という名前で同じ額を収入に上げてやって相殺をさせるという、新たな制度のからくりになります。自己資金でやる部分と外部から資金が入って来るものとの減価償却費を分けて、長期前受金という収入を計上する事で支出が上がらない様に消し去ってやるというのが中身です。

【住田委員】何となくおんぼらとですが…ただいずれにしろ改正があった訳で、これでやるしかないのをお願いします。

他に何か、和田さんありませんか。

【和田委員】藤江さんのお話にもありましたが、私がこの場に参加させて貰う様になった頃から考えてみましても、資料が大変分かり易く改善していただけているのは身をもって感じています。特に最初の図解とかカラーコピーも駆使して、本当に分かり易くしてくださって助かるなと思いつつも、専門的な大きな数字が並んでいても、まだ噛み砕いて理解するには知識がついていかないんですが、先日エネルギー関係の仕事をした時に、水道水とペットボトルとどっちが安全性が高いと思いますかと質問された時に、私はこの会議に参加させていただいておきながら本当に認識不足で、これは間違いなくペットボトルだと思いますと言いつつ切ったんです。そうしたら水道水の方が厳しい調査基準があるので水道水のほうが信頼安心できますよという答えが返って来て。じゃあ何故わざわざ安全な水を飲もうとペットボトルを買いに行っていたんだろうと。だったら水道水を汲んで持ち歩いても良かった訳だと、認識不足を改めて痛感しました。

私もそういう疑問に気付けば良かったんですけど、海外からも含めあれだけ色々な銘柄のペットボトルがあると、きっと体にいいんだろうきっと美容にいいんだろうと選んでいたんですが、そういう情報をもっともっとあれば、家庭の主婦もペットボトルを買って子供に安心な水を飲ませようとかしないでも、蛇口をどンドンひねるんじゃないかと思いつつ。そういう身近な情報を発信していただけると、米子の水にもっと身近に生活の中で潤えるんじゃないかなと思いつつ。

【住田委員】他にも何かございせんか。

【田中委員】収益的収支の予算についてですが、資料の3ページで水道料金の収入が27.89億円で、その他収入が1.98億円という事

なんですね。水道料金の方は給水戸数が限られていますのでそこはもう増えてこないと思います。その他の収入を増やすというのはどうなのかと思ひまして、その他の収入の内訳をお聞きしたいんですけれどもいかがですか。

【湯崎係長】受託工事収益というものがございまして、トンネルの様に入って出て行くものです。他には検査手数料ですとか消火栓の維持をした場合に他会計から貰うお金です。

あるいは預金利息や一般会計からの若干の補助などです。

【田中委員】米子の水が全国的にも非常に良質だと評判で「よなごの水」のペットボトルを作っておられるんですが、その収益も入っている訳ですか。

【湯崎係長】はい、「よなごの水」も雑収入として入っております。

【田中委員】するとそれはそんなに大きくはないんですか。

【八幡次長】「よなごの水」に関しましては、儲けを出そうという事で生産ラインに乗せてはおりません。元々広告宣伝の役割を果たすために、平成 16 年開催のエコアジア会議で P R しようと思ひ始めました。生産本数が足りず生産ラインに乗らない関係がありまして、今は役割としては P R 効果だけを考へて作っております。あとはふるさと納税が非常に好調で、今年度につきましては本数がどんと出ております。儲けとしては大きく出てはおりません。

【田中委員】あまり儲けを出さない様にとということですね。

【八幡次長】原価から 2~3 円といったところで設定をしております。消費税が上がった時にも値上げの話もありましたが、ワンコイン 100 円で継続しようという事で薄利の状態でございます。

【田中委員】はい、どうもありがとうございます。

【住田委員】ちょっといいですか。4 ページの給水戸数が前年比 570 戸のプラスと予想されておりますな。今までの推移からすると、そんなに増えてないという気がするんですが、他にはどういう見込みをなさったのかな。

【八幡次長】給水戸数については着実に伸びております。ただし少子高齢化や核家族化で世帯当たりの人数が減ってきており、家は沢山あるけれども以前の様に 4 人とか 5 人家族ががなくなってきた、夫婦二人とか独居老人の方が多くなってきたという事で人口自体は増えませんが、戸数だけは着実に増えております。

【住田委員】それと一番下の、当年度の純利益で平成 26 年度の決算見込

み、これは旧制度の数字で出すと大体どの位の見込みになるかな。

【湯崎係長】旧制度からの移行の期間ということで、引当金などを一括で計上した関係で平成 26 年度に関してはマイナスとなっております。そういった部分を除きますと、3 億円弱は現状では出る見込みはしております。

【住田委員】26 年度が 3 億位、という事は 25 年度比では相当落ち込んで来るとする事になる訳ですか。

【湯崎係長】決算の見込みの段階では、3 月議会に補正を出しますけれども、突発的な修繕などがあってはいけませんのでそれをまだ見込んでおります。何事もなければ、結果としてこれより良い数字になろうかと思えます。

【住田委員】27 年度予算で純利益が 4 億 4,200 万となっているが、この 26 年度を旧制度で見直してみると、そういった形で純利益を見込んだ場合は、つまり新しい制度で計算した場合 4 億 6,400 万円になる訳だ。

【湯崎係長】はい。

【住田委員】だけどこいつではね、前年度との比較にならんだがんな。

【湯崎係長】ですね、はい。

【住田委員】ここのところをね、旧制度で数字を出しておいた方が、予算を説明なさる時にもその方が良い事ないかなあ。

【金田課長】今会長がおっしゃられましたとおり、この 2 月の時点では年度末まで何が起こるか分からないという事があるものですから、予備費的な費用も設けていますので、差し引きしますとこの数字になります。次回開催させていただく審議会では決算の数字が出てきますので、その時はまたこの数字と違う数字がお示し出来るのかなと思っております。

【住田委員】どうせまた議会で議員さんあたりからね、これを説明してくれという話になると思うんで、用意しておかれた方が良くと思います。

【金田課長】今説明が終わったということで…。

(傍聴席の市議会議員 3 名に)

【住田委員】あ、議員さんか。そうか、これは失礼しました。

【傍聴議員】いえいえ。

(会場笑い)

【住田委員】他にお聞きになりたい事はございませんか。

【吉居委員】収益的収入を 2.1%7,786 万円の減少と見込んでおられますが、今後ずっとそういう傾向は続くのでしょうか。いわゆる世帯数、個々の使用量は減っておりますけれども、今後も減収傾向は続くと思われませんか。

【金田課長】給水収益といいますのは、予測という事になる訳ですが、色々な場で説明させていただいておりますとおり、節水意識の高まりや節水機器の普及、あるいは人口減少、また一時ありましたイオンの自己水源への切替ですとか、あんまりいい情報が無い傾向を見なければなりません。昨年一昨年でもですが天候に左右される部分がございます。では今年度は猛暑かという情報も入っていませんので、厳しい予測をせざるを得ないのかなと思います。今回約 7,700 万円の減としましたけれども厳しい予測の中の下限の方で、今年度は編成しました。これから米子市、境港市、日吉津村でどういう経済状況になるのか分かりませんが、その辺りも踏まえて色々な情報を仕入れながら、その時々での予測になって行くのかなと考えております。

【吉居委員】それに対して、限界集落という言葉が今流行っています。米子市もそれに匹敵するものがある。というのも国が試算しておりますのは大体年間に年寄りが 150 万、あと 5 年もすれば年間で亡くなる人が 180 万人になろうかという中で、米子の水道事業をどの様な長期展望で展開するかにかかっていると思います。

水道局は何十年と水道料金を上げておられない。一生懸命頑張っておられる、古い設備を修理しながら頑張っておられるからどうしたらいいかと。特に私は目と鼻の先に住んでおりますから、その事を私は一番危惧しております。

【住田委員】今吉居さんがおっしゃった事というのは、水道局の職員の皆さんは十分にお分かりになっておる事で、実際に 10 年計画というものを立てておられるが、次の 10 年計画その次の 10 年計画と段々とね、見通しが厳しくなっていくのかなという気がするんですよね。逆にね今地方創生という事で、まさしく米子に大企業が進出して来て水需要がどんどん増えればね、そういう事になればありがたい話ですけど、そんな事は夢の夢でね、実際はおそらく人口減少は続いていくでしょう。やはり水需要というのが横ばいなら儲けもんだと、むしろ減って当たり前だとなっていくのかなあとと思います。そんな中で何

処で踏ん張るのかというのが、ポイントだと思うんですよ。ですから米子市水道事業の10年計画というのは、大体今まで見てまして大きな疑念は無く来てますのでね、また次の10年といった所でしっかり揉んでいただいて、市民の皆さんがこれからも安心だなあと言う計画を立てていただけたらと思います。

まあ吉居さん、これは難しい話でね、原価意識と言う事については水道局の皆さんは、ずっと持って仕事なさってますので、上手くやって行かれると私は感じております。

【吉居委員】こういった状況が続くと、本当に水道料金の値上げという事が出てきて、値上げをすれば益々水離れがおきるという、旧国鉄と同じ状況になるのでは。

【八幡次長】水道ビジョンと基本計画につきましては、見直しをしている最中で、平成34年度までは修正を見込んでおりまして、これから平成30年度からの分を作る予定です。検証は繰り返しており、今ご指摘の様に事が起きてから慌てるのではなく、計画性を持って運営して行く様に協議をしておりますので、皆様のご付託にお応え出来る様に頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

【藤江委員】質問ではありません。子供達の施設見学を継続的に続けられておられますが、その事は凄く大事な事だと思います。子供達が蛇口をひねったら安心して水が飲めて、お母さんが「はいペットボトル」と言っても、「いや、これでいい」と言える様な、米子市の水道の良さを学校教育の一環として、また市民教育の一環としても継続していただける様に宜しくお願いします。

【八幡次長】子供達もやって来てはじめて、地下水だと分かる子供が沢山おります。お父さんお母さんから、水道局は日野川の横にあって日野川の水を使っているという、間違った情報を与えられて来る子供達があります。ですので見学は継続して行こうと思っておりますが、新庁舎建設工事に伴って今後は検討しなければいけないとは思っております。

【住田委員】色々ご意見を賜りましたが、よろしいですか。

そう致しますと、平成27年度の水道事業会計予算、これにつきましてはご提案のとおりで進めていただくと言う事で、よろしゅうございますか。

(「はい。」の声)

【住田委員】 はい。ではそう言う具合で宜しくお願いします。

2 その他（案件の概要及び質疑）

（1）配水池設置事業の進捗状況について

＜案件説明：松前施設課長＞

配水池設置事業の進捗状況についてご説明させていただきます。

前回の審議会において、資料の7ページまでご説明させていただいております。次の8ページ目をご覧ください。配水池は写真の上の方が南部配水池、下の方が中央配水池になりますが、その間の斜面を切土し、その部分の法面補強工事を10月から3段目、4段目、5段目と行っています。2月の写真には載せておりませんが、今、5段目が完了して中央配水池設置面が平らになりました。今後はもっと綺麗な設置面の写真が提出できると思っております。また資料の平成27年1の右側の写真において、少し坂になっていますが、これは南部配水池に上がるための道路を造っております。これが完成しますと、ようやく南部配水池本体の建設に入れると思えます。これからいろいろな工事が競合してまいりますので、全体の工程会議を行い、その中で詰めていきながら、最終年度となりましたが、平成28年3月末の完成を目指しているところです。

先程管理者から説明がありましたが、水管橋本体をクレーンで吊り上げる工事を行いました。壮観な眺めで、道路からも見えますので、ぜひ通って見ていただきたいと思えます。

最後に前回の審議会において、今年度末の進捗率を70%と見込んでご報告いたしました。それを少し超える進捗状況で順調に工事が進んでおります。

配水池についての説明は、簡単ではございますが、大体そういうところで、ご報告とさせていただきたいと思えます。

質疑応答

【住田委員】 ありがとうございます。

何かお聞きになりたい事はございませんか。大体順調に進んでいるという事でございます。

はい、ありがとうございます。

（2）新規水源開発について

＜案件説明：八幡次長兼計画課長＞

これまでの経過について

新規水源開発は平成19年から行っております。合併した淀江地区に、福井水源というのがございましてこの更新と、加えて近くに借地が残っておりましたのでこれの返還を目的に水源開発を行ってまいりました。皆様ご存知のとおり、淀江地区ではいたる所で湧水が出ております。淀江地区の皆さんに言わせると、何処を掘っても大量の水が出るぞという様なお話がありまして、調査にとりかかった次第です。

ところが何箇所かボーリング調査を進めて行きますと、下流で水を汲み上げると、上流で作っておられる農業用の井戸の自噴がピタッと止まってしまう事が確認できました。よく調べてみると、大量と言われていた地下水が、実は福井水源地で取っていた水量が最上限の状態でした。そうして水道局が井戸を掘ることによって、上流の皆さんに迷惑がかかる。いくら水道水・飲み水が大事だからと言って後発者がやって来て、以前からお使いの方にご迷惑をかけてはならないので、淀江地区での開発は断念をしております。それから今日に至るまで、非常に長い水源を求める旅に出かけました。

鳥取県西部では、豊富な水源で良質な水がどんどん出るのを利用して、企業誘致を進めてきた経緯もあって、割と水をPRに良く使っていたと思いますが、実は何処を掘っても簡単に水が出るという状況ではございません。

そしてこの淀江が終わってから本宮という所に、新しい水源を求める計画を立てて調査をしましたが、ここでも見つけ出す事が出来ませんでした。

その次に平成24年度に、岡成のレインボービラ大山という団地内でボーリング調査をしたところ、水が豊富にありました。しかし以前ご報告しましたとおり、近くでは出ていなかったマンガンがここに限ってわずかに出てしまいました。マンガンの量は基準値より下で、取れる水の量は多かったんですけども、私共独自の基準で判断してここも開発をあきらめました。

西尾原地区における調査の経過について

その後平成25年度から現在まで、西尾原地区の水源地調査をずっと続けておりました。主に電気探査と言う、地中に電気を流してその反応によって水があるかどうかを調べていきます。西尾原地区は解析データを分析して結果を出すのが非常に難しく、なかなか場所が決まらない状況でした。既存のデータの洗い出しや再度の検証をしたり、新たな電気探査、それ以外にも自然電位とか色々な方法で調査をして来ま

した。遂には科学的な調査以外にもダウジングをやってみたりと、ありとあらゆる方法を使って場所の特定に時間をかけて来ました。また吉谷先生をはじめとする外部の委員さんと検討会を作っており、その中で色々協議をしてまいりました。

その甲斐あって、現在は畑となっている写真に赤で示した場所に、ようやく特定する事が出来ました。

結果だけを見てしまいますと、西尾原水源地のすぐ東側ですから、ここなら出て当り前だろうと言う話にもなると思いますが、実はこんな近くでも何処が一番適当なのかはなかなか難しい状況で、時間ばかりがかかってしまいました。そうして時間をかけて色々データを検証した後に、昨年12月からボーリング調査を始め、1月には水質水量共に良好な結果が出ております。日量で1,200～1,400 m³程度の取水は可能であろうと考えております。現状は150mmの管を入れまして、それに付けているポンプの能力は毎分650ℓで限界まで取水しても日量1,000 m³に満たないです。ポンプを止めてから回復の仕方であるとか色々試験をしているんですけども、経験値から大体毎分1,000ℓは十分取れるだろうと思っています。本井を掘った時に正式な揚水試験を行いますので、数値としてお示しできるとしております。

この様な調査を重ねてまいりまして、水量・水質共に良好という事で、今後につきましては次年度早々に認可申請業務を行ったり、現在は借地ですので用地の購入、更には建設準備と進める方向ですのでご報告させていただきます。

資料の裏には簡単な位置図の地図バージョン、ボーリングの機械の設置やボーリング調査の様子を掲載しておりますので、参考にさせていただければと思います。宜しくお願いします。以上でございます。

質疑応答

【住田委員】 ありがとうございます。

何かお聞きになりたい事はございませんか。

長時間ご審議を賜り、ありがとうございました。

以上で本日の審議会の日程は全て終了いたしました。

3 事務連絡

【事務局】 次回の開催を、9月頃予定しております。

平成26年度の決算状況についてご審議をいただき、いよいよ完成まで約半年となりました新配水池についても、ご報告させていただきます。

本日の審議会は以上で閉会いたします。

皆様大変お疲れ様でした。